

貧困問題連続市民講座

雇用も福祉もボロボロのネットと成り果てた我が国では格差と貧困が拡大しています。アメリカ型の新自由主義・市場原理主義が行き詰まりを見せ、今、「新しい国のあり方」が問われています。

在野の法律専門家集団である私たち、大阪弁護士会も、このたび、貧困・生活再建問題対策本部を設置し、本格的にこの問題に取り組んでいくことになりました。

平成21年8月から始まった、この連続講座では、雇用や社会保障の諸分野の制度について、第一線で活躍する研究者の皆さんに、じっくりと講義をしていただいています。毎回、多くの市民の方に参加いただいています。「分かりやすい」「ためになった」「また来たい」と大好評です。

第21講、22講に引き続き、第23講以降は社会保障を支える財源(税制)を学ぶ企画となっております。

我が国の制度改善を考えるにあたって、大いに参考になるはずです。

ぜひ、お気軽に足をお運びください。

あなたの職場、あなたの家族、あなたの依頼者、そして、あなた自身にも、きっと関わりのある問題です。是非、お誘い合わせのうえ、多数ご参加ください。

■ **参加費無料・申込不要**

■ **日時:各日共に 18:30~20:30**

※各回の開催日、内容、講師の詳細は裏面をご覧ください。

■ **会場:大阪弁護士会館**

(大阪市北区西天満1-12-5)



第23講

負担を減らして社会保障を充実させる

日時：9月9日（金） 講師：菊池英博さん（日本金融財政研究所 所長）

【プロフィール】

東京大学教養学部卒業後東京銀行（現三菱東京UFJ銀行）入行、ニューヨーク支店為替課、ミラノ支店長、豪州東京銀行取締役頭取などを歴任、東京銀行が三菱銀行と合併する1年前の1995年より文京女子大学（現文京学院大学）教授を12年間務めた。現在シンクタンク日本金融財政研究所所長。1998年の金融危機のときは、「経営責任と株主責任を明確にして大手銀行に公的資金注入を提案（資金量25兆円）、法制化する。「日本は財政危機ではない、政策危機である」「5年で100兆円の緊急補正予算」を提案。著書には、「銀行ビッグバン」（東洋経済、1995）、「増税が日本を破壊する」（ダイヤモンド社、2005）、「消費税はゼロ%にできる」（同、2009）などがある。

番外編

働きがいのある人間らしい仕事—ディーセント・ワークの実現のために

日時：10月4日（火） 講師：西谷 敏さん（大阪市立大学名誉教授）

【プロフィール】

1943年神戸市生まれ。1966年京都大学法学部卒業、1971年京都大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。同年大阪市立大学助教授、1983～2007年同大学教授。2007～2010年近畿大学法科大学院教授。2001年から奈良県労働委員会公益委員。主な著書に、「労働法における個人と集団」（1992年有斐閣）、「ゆとり社会の条件—日本とドイツの労働者権」（1992年労働旬報社）、「労働組合法」（1998年、[第2版]2006年有斐閣）、「規制が支える自己決定—労働法的規制システムの再構築—」（2004年、法律文化社）、「労働法」（2008年日本評論社）、「労働契約と法」（編著、2010年、旬報社）、「人権としてのディーセント・ワーク—働きがいのある人間らしい仕事—」（2011年旬報社）などがある。

第24講

富裕者課税論

日時：11月1日（火） 講師：安藤 実さん（静岡大学名誉教授）

【プロフィール】

日本租税理論学会理事長。1934年、北海道旭川生まれ。早稲田大学政経学部卒、法政大学大学院博士課程経済学専攻修了。東洋経済新報社嘱託社員、静岡大学人文学部講師（財政学）、教授、人文学部長を経て、1997年3月定年退官。札幌学院大学教授、名古屋学院大学教授などを経て、2007年3月退職。共著に「消費税の研究」（1990年、青木書店）、「富裕者課税論」（2009年、桜井書店）などがある。

第25講

税制と社会保障

日時：12月6日（火） 講師：関口 智さん（立教大学経済学部経済政策学科准教授）

【プロフィール】

専攻は財政学・租税論。東京大学大学院経済学研究科博士課程、新日本監査法人（現：新日本有限責任監査法人）を経て、現在、立教大学経済学部・大学院経済学研究科准教授。2010年から政府税制調査会専門家委員会委員。共著に『希望の構想—分権・社会保障・財政改革のトータルプラン』（岩波書店、2006年）などがある。